

運勢を整える

運勢バランス



みのり

「比肩」のスターたち

伊達公子

錦織圭

ダルビッシュ有

石川遼

許斐剛

(敬称略)

この有名人たちの集合はなんでしょう。

それは四柱推命でのカテゴリ、性格などを意味する「比肩」の人たちでした。（生年月日はweb上で知られているもので鑑定しました）

一番最後の許斐剛（このみ・たけし）さんはスポーツ選手ではありません。この方は少年ジャンプで「テニスの王子様」という漫画をお描きになってた漫画家です。現在は少年ジャンプSQにて「新テニスの王子様」を連載されています。

私は漫画も好きですが、「テニスの王子様」は読んだことありませんでした。しかし、近年ミュージカル化され、友人たちに勧められて観劇したら面白くて大好きになった舞台の原作でもあります。

「テニスの王子様」のミュージカルを見ていると、いつも感じていたのは、出てくる主要なキャラクターは「比肩」ぽいな」と思っていたことです。

「比肩」という星はどんな星かということ「自分」という意味であり、この星そのものは吉でも凶でもありません。基本的に性格はマイペースで、肩を並べるという意味そのままです。いわゆる負けず嫌いです。

あらためて許斐剛さんを四柱推命で鑑定してみたら予測したとおり元命「比肩」だったのです。やはり主人公など要のキャラクターは自分の分身なのでしょうと理解しています。

また許斐さんは今まで鑑定した人の中でもなかなか無い良いバランスの命式でした。

この許斐さんという方は、今までの漫画家さんの多くのイメージを覆し、表舞台でも活躍されています。

CDデビューしたり、プロマイドを出したり、ファンの前にも気さくに現れています。それほど詳しいわけではありませんが他に漫画家でそんな活動的な人はあまり知りません。

この方のおかげで「バランスが良い」「運の良い」ということの意味が理解できたのでした。

といっても現時点のわかったなので、これから先またさらに「良い」の意味はかわるかもしれませんが。

許斐さんに限って言えば「自分のやりたいこと、なすことを素直にまっすぐ行かれる方、否定的でなく疑問を持ちません。またそれが多くの方に支持される」なのではないかと思います。

2011年全豪オープンテニスでベスト8の記録の錦織圭さんも「比肩」です。

以前から彼が話題になるたびに、彼のヒストリーやインタビューなどを見て、彼も「比肩」のキャラクターそのものという気がしまして占ってみたら、やはりその通りでした。

錦織さんは「建禄」「帝王」という運勢も揃っています。これは人生において自分で運を切り開ける力の表れです。ですので彼の現在の姿も納得なのです。

そんな彼とダブルスを組んで戦った伊達公子さんも「比肩」でした。しかもエネルギー数では錦織さんを凌駕しています。大変なエネルギーを持つ似たもの同士だからこそ、世界でダブルスを戦えるのですね。

ゴルファーの石川遼さんも強いエネルギー数です。錦織さん、伊達さん、石川さんたちに比べるとダルビッシュ選手は少し可愛い比肩になります。だからこそチームプレーヤーなのかもしれませんね。

いずれにせよ、世界で活躍し名を馳せるアスリートはエネルギー数が高い人が少なくないです。

「比肩」は特に一人で戦う、勝ち負けにこだわるプレーヤーに向いていることは間違いないと思います。

しかし「比肩」だからといって誰しもが、世界で活躍できるプレーヤーになれるかというとそういうものでもありません。

やはり運と運の強さが必要です。そしてもちろん運だけでなく努力も必要です。

でもその努力も、やはりその運があるからなのか、と思わないでもないです。

卵が先かニワトリが先かという話になりますね。

運とは何か、変えることができるのか？

次にそんな話をしたいと思います。

比肩のスターたちの話題にも出てきた運の良さ、強さってなんでしょう。

占いをしたことある人は、運がいいとか悪いとか、強いとかよく話題に出てきますが、実際にどういうことかを説明するとハッキリとこういうことだと説明するのは簡単ではないですね。

中には気の強い人とかハッキリものを言える人をイメージしますが、それは違います。運が強くてそういう人もいますが、逆もありえます。運が強くて、気が強い人の個性がハッキリしているだけではありません。

お金を稼いでいる、成功している人。確かに運は強いかもしれませんが、人生の最初から最後までそれが続く人は珍しいでしょうね。

幸せそうな人。これは一番近いかもしれません。でも曖昧な表現ですね。

運の良い人、エネルギー数が高い人は思い通りにする人、ともいえます。やっぱり気が強いんじゃないかと思われそうですが、気が強くなくても、何も言わないでも、なんとなく、いつのまにかに結局は思い通りにしている人もいます。それは自分の力でともいえますし、周囲の人の協力でもです。

つまり自力で押せる人もいますし、それに周囲も手助けしてしまうということでもあります。

不思議と応援したくなり、自分から助けたくなくなってしまいう人でもありますね。また言うことを聞きたくなくても、そうせざるをえない状態になっていることが多いです。

また運の良い人は、身体も比較的強い人が多いです。そして全体的に浮き沈みが少ないことが多いです。

運の良さ、強さはなんてありがたいのだろうか、うらやましい。ともいえますね。

その運の良さ、強さはどこでわかるのかというと、私は四柱推命で判断しています。

四柱推命などで生まれた日の陰陽の組み合わせを書いたものが命式といわれる表です。それに一生の運気の流れを組み合わせで鑑定するのが四柱推命です。

依頼されて四柱推命の表を作成して、依頼主に説明する時に「運の強い人、良い人などをどう説明したらいいか」よく考えます。

いろんな人が人それぞれに説明されていますが、私にはどうもしっくり来ませんでした。ですので、その都度、お客様に合わせていろんな説明の仕方をしていました。

しかし最近になって、友人と運勢について話していて割りとシックリきたのが「船と航路」です。別に乗り物と道でもいいのかなと思うけど、家族やパートナーの意味をつけるとやはり「船と航路」がシックリきます。（もしかして既に他の占い師さんも思いついているかもしれませんが、とにかくその時点で私は友人と話していて説明しやすいと思ったのです）

例えば「命式が良い」場合の船は「豪華客船」の命式。

「エネルギー数が多い」「運が良い」場合の航路は「穏やかな気候で凧の海」で「追い風」です。

「命式が良い」場合は「カヌー」の命式。

「エネルギー数が少ない」「運が良くない」と場合の航路は「北海の海や嵐」で「向かい風」です。

これは極端なたとえですね。カヌーで向かい風人生・・・本当に大変です。

では「カヌー人生はずっとず～とそのままなのか!？」というと違います。

つぎに運勢の変化について説明したいと思います。

運勢は変わっていく

「運命は生まれた時から決まっているのか」というとある程度、アウトラインは決まってると思います。顔や身体、生まれた土地、家、家族、兄弟などは通常変化しませんよね。

「ではカヌーで向かい風人生はずっと続くのか」というとそれは違います。

命式はカヌーだとしても、風向きは変わりますし、航路も変化します。

運気の流れは年ごとに変わるのです。毎月、毎日、時間とともに変化するとととってもいいです。

つまり北海の海から、穏やかな海に変化して、漕ぐのに最適な気候もやってくるのです。追い風も吹く時もあるでしょう。

豪華客船にだって北海の嵐もやってくるでしょうし、向かい風も吹くのです。しかし元から大きな船で装備もしっかりしてるので、ちょっとのことではビクともしないのですね。それこそが強さや良さなのかもしれません。

「カヌー人生にはそれくらいの楽しさしか用意されていないのか?!」と思うかもしれませんがカヌーのはカヌーの良さがあり、それを好む人がいます。

不幸の元はカヌーに乗っているのがイヤな場合です。豪華客船に乗りたいと思ってる状態です。

カヌーに乗るのは好きな人はカヌー以外に乗りたと思わないかもしれません。もし豪華客船に乗りたと思っても、突然豪華客船になったらなったで合わなくてストレスを感じるかもしれません。

「隣の芝は青い」といいますが、どんな人生でもそれに似合った大変さはあるものですから。

それにカヌー人生も最初は家族と連結しているかもしれないので、一人で漕いでいるわけではないかもしれません。例えば親がエンジンを積んでるボートだったら、親にひっぱってもらっている限り自分で必死で漕がなくてもいいわけです。逆に自分がボートでも親がカヌーだったら、親の速度、航路に従うしか無い場合もあるかもしれません。

「子どもの運は親次第、親から独立してからが本当の自分の運」というのは最もな話だと思います。

またカヌー人生がいきに変わる事があります。それは例えば結婚です。

結婚相手が豪華客船、クルーザーだとして曳航してもらえたら自分で漕ぐ必要がなくなり楽になるでしょう。でも実際カヌーが豪華客船に曳航される状態は、差は大きくて大変かもしれませんね。あまりに差がありすぎたら、いざという時の意志の疎通に時間がかかり、回避するのも手間取り共倒れの危険もあるかもしれません。寄らば大樹の陰とばかりに、大きな船につないでもらったつもりが、その船の行く手が険しくなったときついていけない場合もあるかもしれませ

んね。

2011年1月にイタリアで豪華客船の事故がありました。豪華客船といえども船頭次第では危ないのですね。絶対安全ということはないです。

近年では結婚も恋愛で、お互いの意思でというのが主流ですが、それ以前は家同士の結びつきということが重視された時代もありました。それは案外、理に適ったやり方だったのかもしれませんが。

結婚にかぎらず付き合う人は自分に似合った人のほうが気楽というのは、運勢的にみても正しい考え方かもしれません。

しかしまた結婚自体も運次第という考え方があります。

理想的な相手だと思い結婚したとしても、結婚してしまえば自分の運に添いますので「こんなはずではなかった」となることがあります。

相手と連結した時に、初めて相手の運の良さ、強さの状態が自分にどんな影響を及ぼすかわかるからです。

たとえ「豪華客船」と結婚したとしても、自分が豪華客船になれるわけではありません。

豪華客船との差がハッキリ見せ付けられて、余計に辛くなる人もいますし、豪華客船につれていかれた先がまた豪華客船の集まりで、惨めに感じる人もいるかかもしれません。カヌーは豪華客船からは見えにくいので様子がわかりにくいかも。カヌーの人の気持ちが理解できないかもしれません。

そう考えるとようするに、自分の運は自分もちなのです。

「カヌーで良い」「カヌーをもっと良い船にしていこう」と思えないと自分の人生に満足できないのです。

それは「豪華客船」の人も同じです。恵まれた環境、恵まれた才能を持っていても、それに満足できなければ無意味なのです。

「自分の運を受け入れる」ことは「自分を好きになる」ことだと思います。

それこそが運をよくする事につながると思います。

運勢はかわっていく 2

「自分の運を受け入れる」ことは「自分を好きになる」とはどういうことでしょうか。

まず人は一人で生きているわけではありません。

誰の助けも受けてないから、一人で生きていると思う人もあるかもしれませんが、援助的な意味ではありません。

人は自然に発生したわけじゃなく、親から生まれたということです。親にもまたその親がいて必ずつながりが存在するはずで。

そして社会に属していることです。国や地域など、その社会が発信している情報から必ず影響を受けているのです。

例えば、結婚に対する考え方ですが、20年ほど前までは30歳過ぎても独身でいる人は少数派でした。しかし現在は30歳過ぎてもシングルは珍しくありません。結婚しない人も増えています。でもこれも地域差があります。地域によってはやはり30歳までに結婚するのが主流のところがあるでしょう。長男が跡継ぎ、同居が当たり前のところもあれば、核家族が当たり前なところもあるでしょう。日本国内でも差がありますが、これが外国まで考えると、また幅が広がることでしょう。

結婚に限らず、人の「当たり前」は時代と環境によって大きく影響されていることがわかってきます。

運というのは、生まれた時代や環境も関わっているのです。運命共同体という言葉がありますように、社会、家族、その他関係する者の影響も小さくありません。生まれる時代も、家族も選べないということは、そういうことだと思えます。

「それじゃあやっぱり運は変わらないのか？」とガッカリしてしまいそうですが、この世に変わらないことはほとんど無いのです。さきほどの結婚観もですが「変わらない」ように見えても、少しずつ変化してるのですね。

この変化していること、環境から影響を受けていることに意識的になること。自覚することが大切です。

でもほとんどの人がこのことに無意識でいると思うのです。

目の前の事は当たり前で流れていっている～と思っている。

人生を船で例えましたが、「豪華客船」に生まれて、順風満帆な出発をした人は、ずっとこの調子で行くと思込んでいます。しかし時代も環境もどんどん変化しています。それに無自覚でいると、向かい風が来たり、冷たい海に入ったことを気付かずに「なんで急に進みにくくなったのか？」と不満に思うこともあるかもしれません。

出来たばかりの船は美しく立派ですが、経年でそれも多少は衰えてきますよね。本人だけそ

のことに気付かないでいると、周囲の評価を不満に思うかもしれません。

逆に「カヌー」で北海の向かい風でスタートした場合は、それ以上に酷いことはないので不満に思うことは少なく辛抱強いかもしれません。向かい風が止まっただけでも「あのときに比べたら、今なんてまだまだまだ楽だな」と思って頑張れるかもしれません。追い風でも吹こうものなら、大喜びかもしれません。

またカヌーは小回りも効き、もしかしたら途中でもっと良い装備を手に入れられるかもしれません。そんな可能性も秘めているのです。

自分がどんな運勢なのか、自分は時代や環境から影響を受けているのか自覚的になりますと、今抱えている悩みや不満が本当はどういうものなのか見えやすくなると思うのです。

もしかしたら、「当たり前」だと思っていたことがそうではなくなる事があるからです。

ちょっと難しい話になってしまいましたが、早い話が自分を客観的に見ること。狭い単位の集団で物事を考えないことで、意識が変わるかもしれないということです。

意識＝心が変わると、運勢も変わり始めるのです。

占いをしてもらうこと

占い師に占いをしてもらったことはありますか？

私は1度だけあります。それはデパートの特典でした。ですので、自分でお金を払って占ってもらったことはありません。

世間の人がどれほど占いに親しんでいるのはよくわかりません。ですが雑誌やTVの占いなどごく普通にあるものなので、それほど特別に珍しいものではないと思います。

しかし実際にお金を払って占い師に占ってもらうのは敷居が高いのではないのでしょうか。

占ってもらいたい、占い師に声をかけられたなど、あまり関わりのない占いと占い師に出会った場合の参考に「占いをしてもらうこと」について書いて見たいと思います。

占い師に占ってもらったことがある人は、大抵何か困ったことや悩み事があるとき、それか友人とつきそいにいったついでにお願いしたということもあるでしょう。

あるいは有名な占い師だから好奇心でというのもあるでしょう。

どちらにしても、「自分の意思で占い師に占ってもらった」ことには違いはないでしょう。

お金を出してまでするのですから、そうした意思があると思います。

では占い師の鑑定結果をどう受け止めますか。

良い結果であるなら、信じる。悪い結果なら、信じない。

お遊びみたいなものだから、特に気にしないということもあるでしょう。

でももし気になるようだったら、それは現在の自分に多少は疑問があるからだと思います。

未来についての占いの結果が必ず当たるかどうかはわかりません。

それはあなたの判断で、変わる可能性があるからです。

運の強さや良さについてすでに書いていますが、四柱推命では生まれた時におおよその「こうなる」というアウトラインがあると思います。

しかし、あくまでアウトライン。微細なことは自分次第でどんどん変わっていくのだと思います。

つまり運を変えるには、自分が変わればいいのです。

占いをしてもらったら、その結果をどうしようと自由です。

でも少しでもひっかかるところがあったら、そのことについて考えてみてもいいかもしれません。

そして少しでも良い方に変ったなら、あなたは運がよくなったのかもしれない。

占い師とは

占い師にもいろいろいます。

老若男女、有名無名、占う方法もそれぞれです。

占い師にどんなイメージをもっていますか。

「ベールをつけて水晶玉の前に座っている人」とかはよくテレビとかでイメージしていますが全員がそうではないとわかっていますね。

少し話は変わりますが、私は以前、教育関連で働いていました。

そのせいか学校にあがるお子さんを持つ知人から「学校の先生てどうなの？」と尋ねられました。

質問は大雑把すぎですね。知人だって学校に通っていたのだから、おおよそは知ってるはず。でもお子さんが可愛いから、不安でたまらないのでしょうかね。

「先生だから、とあまり先入観で決め付けられないほうがいいんじゃない？学校の先生だって、普通の人間だということを忘れなければ大丈夫」と伝えると、知人はハッと気がついたみたいでした。

知人は期待と不安で、いっぱいいっぱいになっていたのですね。

学校の先生＝聖職者というイメージが強すぎたら、実際の先生を見てガッカリすることもあるかもしれません。逆に何も期待せずにいたら、「いい先生でよかった」と思えるかもしれません。

学校の先生にもいろいろいます。学校の先生でなくても、警官でもいいですし、医師でもいいですね。

この職業だからこういう人と決まってはいません。

つまり占い師にもいろいろあるのです。

占い師の先入観に惑わされず、実際に現れた占い師さんを見てみましょう。

占い師以外にも相談する人はいるかも

占い師にもいろいろいますよね。

老若男女、有名無名、占う方法もそれぞれです。

最初から「この占いで占ってもらおう」と決めていたら選択は早いかもしれません。

決まってない場合は、相談してからどうするか決めることもあります。

相談内容によってはもしかして、占いではなく、他をあたったほうが早い場合があるかもしれません。

実際、私が相談される内容にも、それは占いで考えることではなく、家族とよく話し合うとか、医者にご相談したほうがいいのではないかと思える場合もあったりしました。

実は「占い師に鑑定をしてもらおう」ことは特別なことではありません。

普段の生活ではあまりない事かもしれませんが「お金を払って、仕事を頼む」場面は占い師に限らず他にも沢山あって、それは実行に移したことはあるかもしれません。

「マッサージをうける」「電化製品などの取り付けをしてもらおう」だと少し遠すぎるかもしれませんね。

「弁護士に相談する」「カウンセリングをうける」「探偵・調査会社に依頼する」少し近くなってきたでしょうか。それにしても弁護士、カウンセラー、探偵に会うことも、滅多にないかもしれません。

「占い師にみてもらおう」も滅多にない事かもしれません。

縁もゆかりもない人に、何かを依頼することって、それは特別なことといえばそうかもしれませんね。

でも占い師だからなんでもお見通し！ということは無い場合が多いと思います。（お会いしたことはないけど、いらっしゃるのかもしれませんが）

相談したいこと、困ったこと、悩み事を、解決したいと思いその手段として占い師を選んだということですがもし「この占い師とは合わない」「他の解決方法がありそう」と思ったら、他を当たればいいのです。

占いなどで全てが解決できるなら、この世の占い師さんは皆、とても幸福かもしれません。でも必ずしもそうではないですよ。

占いを頼る場合に忘れないでおきたいポイントは、依頼主は自分ということ。

占いに限らず、誰かに意見を求めた場合も、結局は自分が判断することなのです。

そして、占い師はこの世に沢山います。

解決方法も沢山あると思います。

それでも占いをしてみたい場合は・・次にかきたいとあります。

相手のフィルターを考える

最初に書いておきますと・・・

私の考える良い占い師とは「不安を煽らない」占い師だと思います。

占いで運命は変わりません。変えるのは自分の意思であり、行動です。

占い師といっても占う方法はそれぞれ

四柱推命もあれば、星占い、手相など沢山あります。

それらの方法でその人の現在、過去、未来を予測するんですね。

四柱推命だと、生年月日から鑑定するのですが

その内容は誰が占っても同じはずなのですが「解釈」が異なります。

占い師さんの知識、経験、技量が合わさったフィルターを通して

一般の人にもわかりやすく説明するんですね。

それは翻訳作業といってもいいでしょう。

読書や絵の感想が人によって違うように

同じ占いで見て、全く逆のことを言われることは無いにしても

言い方や説明は微妙に違ってくると思います。

同じ学年で同じ教科を教えても、先生によって教え方に違いがあるように、

占いの結果も、占い師によって違うことがあるのです。

そして人にはどうしても合う、合わないがあるので

伝わりやすい、伝わりにくいということもあるでしょうね。

つまり、知識、経験が豊かで、技量もある自分にとって相性の良い占い師がみつければいいの
でしょう。

でもそれこそ、なかなかわからないですよ。

お医者さん選びでもなかなか難しいですよ。

口コミで良い評判なので、行ったものの、自分にはイマイチ。また逆の場合もあります。

ではどうやって判断するのかというと

最初に書きましたとおり「不安を煽らない」ことです。

基本的に希望の持てるアドバイスをしてくれる占い師なら大丈夫でしょう。

そして一番心得ていたいのは、自分で判断することです。

「占いで運命は変わらないです。変えるのは自分の意思であり、行動」と書きました。
占いの結果を聞いて、判断して、行動に移すのは常に自分の意思です。
他人に自分の事を決めてもらうことは避けたほうがいいでしょう。

占いに限らず、親、学校の先生、友人など相談することがあるとします。
複数の人に相談してそれぞれ違うアドバイスをもらったらどうしますか？
その中から、自分が良くなりそうな答えを選びますよね。
占いのアドバイスもその1つだと考え、取り入れるといいと思います。

親は、それまで生きてきた経験と知識とあなたの事を心配するフィルター
学校の先生は、それまで生きてきた経験と知識と学校の先生という立場からのフィルター
友人は、同世代の経験と知識とあなたとの関係性が左右するフィルター
占い師は、それまで生きてきた経験と占いの知識と仕事のフィルターです。

身近に誰にも相談する人がいない場合、したくない場合
赤の他人であり、仕事である占い師を使ってもいいと思いますが
自分の考えに、人それぞれの客観的な意見を総合して道を決める
それさえ忘れなければ、人生の大半は大丈夫なのではないでしょうか。

装備を手に入れる

豪華客船と追い風で人生をスタートした人は、そこから少しでも不利な状態になったら、不快に感じるかもしれません。

カヌーで向かい風の人生をスタートした人は、そこから少しでも有利な状態になったら、楽になったと感じるでしょう。

豪華客船に生まれて順風満帆な出発をした人は、そこから少し向かい風が来たり、冷たい海に入っただけで不満に思うこともあるかもしれません。

出来たばかりの船は確かに美しく、立派ですが、経年でそれも多少は衰えて不満に思うかもしれません。

カヌーで北海の向かい風でスタートした場合は、それ以上に酷いことはないので、不満に思うことは少なく、辛抱強いかもしれません。

「あのときに比べたら、今なんてまだまだ楽だな」と思って頑張れるかもしれません。

そして、カヌーは小回りも効き、もしかしたら途中でもっと良い装備を手に入れられるかもしれません。そんな可能性も秘めているのです。

良い装備を手に入れるとは？

人生航路の途中で多くの人と出会い経験を重ねていく。大きな船だと環境の影響はそれほどダイレクトに感じやすすくないです。その逆に小さな船だと影響は大きいですね。

環境の変化に影響を受けやすいということは、それだけに危険も大きいのですが、その危険を乗り越えたら自信もつきますし、新たなピンチに乗り越える知恵もつきますね。

そして危険な状況に備えようと、情報などを逃さないようにするかもしれません。

それこそが良い装備を手に入れるということなのだと思います。

私の祖母は水害、大火、そして地震と大きな災害を体験して生きてきたので、その体験から気をつけるべきことを実感し、子孫に伝えていました。その他にも自らの体験から実感して役立つことを沢山教えてもらいました。祖母もカヌー人生だったんですね。

人生行路でいろんな出来事が起こりいろんな人とすれ違いますが、祖母のように、その時々で何かを得て、学んでいけたら、きっと変わっていくのだと思います。

その学び、知恵が「良い装備」なのだと思います。

「装備」となる可能性を秘めている事とは・・・

- 1) 起きた出来事から学ぶ
- 2) 客観的に自分を見られる方法を見ること。

3) 良い人と知り合い、その人のアドバイスを聞き入れること。

4) 開運に良いとされる中で自分に合う方法を見つけること。

簡単に4つに分けましたが、これらの方法は具体的にいろんな方法があります。

1) 2) 3) は特別に努力しなくても読書や学校へ行く、働くというごく普通のことで身につけられる人もいます。

でも自分では気付いていることは予想以上に少ない事がほとんどです。

何度も同じ場면을繰り返し知っていることからわかったまで行く事が多いです。

当然、何か困ったことがあって他人のせいになっているようでは装備になれません。

3) の良い人と出会う～は、良い人かどうかはその時わからないかもしれません。

自分の価値感で相手の良い悪いは変わるので、後から気付くこともあるかもしれません。

以前どこかで見た「悪い事はいろんなタイプがあるけど、良いというのは同じタイプである」ということ。

良い人というのはそれほど幅広い種類ではありません。

また良い人が傍にいて、アドバイスをしてくれたとしても、

それを聞き入れる器が自分がないと無意味になることもあります。

そういう意味では4) が大事です。

気付ける自分になれる、タイミングを引き寄せるのを促進してくれたのは4) だと思います。

次はそれらをもう少し具体的に書きたいと思います。

装備を手に入れる 2

「装備」となる可能性を秘めている事を4つに分けましたが、この4つがそれぞれにまたいろんなケースがあるので、実は簡単には説明できません。

実際にこの4つもとっくに知っている、わかっていることだと思えることばかりです。この「知っている」「わかっている」がクセモノなのです。

具体的にと書きましたが、まず4番の「開運に良いとされる中で自分に合う方法を見るけること」から説明します。私が実際に「装備」つまり運勢が変わるためのものだと思えたのは・・・

- ・ 吉方位へ移動すること（方位学を学ぶ）
- ・ 数霊式で自分の運の弱点を補強すること。
- ・ パワーストーンなど良いといわれるものを持つ。
- ・ 四柱推命を学び、自分を良く知り短所を治す。
- ・ イメージトレーニング

物事には相性というものがあります。健康法やダイエット法もそれぞれ向き不向きがありますように、開運方法も向き不向き、あるいは相性があるのではないかと感じています。

開運方法はこの世に沢山あります。既に試された方で効果があると感じた方は続けられているかもしれませんがね。効果を感じられない人はやめてしまうか、また別の方法を探すかもしれませんね。

私は身近に方位学、四柱推命、数霊式を知っている人がいたので自然と日常に取り入れていましたが、一般的にそんな人のほうが珍しいでしょう。

それでも私自身「吉方位で効果を感じた」と思えるには時間がかかりました。だから他の人に勧めるにはかなり時間がかかりましたし、勧める時も「理由は説明できないけれど、必ず何らかの影響はあるといえます。」と恐る恐るという調子でした。科学で説明できないことを他人に勧めるのには勇気がいるのです。

今もあまりその調子は変わっていません。どうしてそんな調子なのかというと「これをしたら宝くじがあたった！」「恋人ができた！」とかそんな週刊誌の広告ページにあるような効果があるからとは言い切れないからです。

運勢、運命は人それぞれですし、開運方法もひとそれぞれなので、万人に「こうしたら必ずこうなる！」と言い切れるものではないのです。ただ確実に影響があり、少しずつでも、人によっては一足飛びに良い方へ変化を促すことはわかっているのです。

パワーストーンについてもそうです。どの石を持つかで効果が変わるといわれていますし、同じ石にしてもグレードがあります。石にも相性があると思います。数え切れない石から自分に合う石を探すこともとても気の長い話かもしれません。

装備を手に入れる3

運勢、運命は人それぞれ、開運方法も人それぞれなので、万人に「こうしたら必ずこうなる！」と言い切れるものではありません。だから、自分に合う開運方法を探すとしたら実はとても気の長い話になるかもしれないのです。知識の無い人が一から勉強して探していくのは途方も無いことかもしれません。

ですが、装備を手に入れる方法の順番は決まっていませんし、同時進行で起きていく可能性もあります。私の場合は同時進行でした。

私の家は祖母が方位学を知ってるので母も自然に行っていました。子どもの頃から自然に親しんでいました。

「方位学」というと堅苦しいイメージですが、実はとても身近にある物を使って行っています。

それは「暦」です。暦は書店で売られています。カレンダーが発売される時期になると必ず一緒に売られていますしコープの宅配システムの商品の中や有名な100円均一のお店にも置いてあります。

暦は普通にカレンダーとしても使えますし、「大安」「仏滅」の日を調べるのに使用している人もいると思いますが、実は「吉方位」「凶方位」を調べるためにも使えるアイテムなのです。

子どもの頃から親しんできた暦でしたが私は使い方も知らず、親から移動先についてアドバイスされると素直に従っていただけでした。引越しや旅行などです。知っているけど、理解はしていない暦の使い方を私がマスターすることになったのは、友人との出会いからでした。

大人になってから趣味を通じて知り合った友人は性格も穏やかで本当に良い人ですが、何かとトラブル続きでした。それを気の毒に思い私で役立てることはないかなと思いました。

「運をよくする」というような話をするのは相当に勇気がいりましたが、ダメで元々と思い切って方位学を使ってみないか伝えてみました。すると友人は私自身を信用できると思い、やってみることになりました。そして最初は祖母から友人に教えてもらうつもりでしたが、祖母は私が教えるべきだというのに従い、私が祖母に習い、友人へ教えるということになったのです。

子どもの頃から当たり前用語や使い方を耳にしていたので、すぐにマスターできた私は友人に教えました。教えることによってまた理解が深まりました。

それと同時に、祖母は四柱推命、数霊式についても私を仕込みました。その習った知識はすぐにまた友人のために使いました。

それまで言われるがままに方位やその他の事を見聞していましたが、人に伝えることによって意識し始めると、自分のためにも、そして友人のためにもとても役立っていることがわかるようになってきました。

勉強したことが自分と友人にそれぞれわかりやすく影響が出ることによって、疑う心が小さ

なくなっていました。自分で行いながら疑うとはおかしなことですが、目に見えない効果を信じきるといのはなかなか難しいのです。逆にすぐに信じ込みすぎるのも恐ろしいことだからです。

1つの開運方法を試そうとしたら、次から次へと他のも実行することになっていった上に、人助けも同時にすることになったのです。人助けは開運のもっとも最短コースだと思います。実際人助けとこいつつ、私が助かっているのですから。

開運方法は、いくつもありますが、1つずつ行ってもいつの間にか相乗効果で多くの方法を実行していくことになるのです。

私は4番の「開運に良いとされる中で自分に合う方法を見つけること」を行いつつ、1番から3番も同時に行っていたのです。

このように、開運方法はいつでも、誰でも実行するチャンスがあるのです。

開運と人助け

前のページで「人助けは開運のもっとも最短コースだと思います」と書きましたが「装備」を手に入れる1番から4番には入っていません。それには理由があります。

最短コースではあるけど、そのコースは誰にでもいける簡単な道ではないからです。

「急がば回れ」とことわざのとおり、急いで行こうとすると必ず失敗してしまう道なのです。

「助ける」というと、困っている人に働きかける状態をイメージしたとします。

例えば電車に乗った時に、お年寄りが立っているのでも席を譲るなどの親切はわかりやすいですね。ケガをされている人、具合の悪そうな人、妊婦さんに譲るのもいいと思います。

そうした一般的にわかりやすい「人助け」をするのは難しくないのです大丈夫だと思います。

でもまれにその申し出を断られることもあることもあると思います。その時にガッカリすること、気分を悪くするのは自分にマイナスです。

助けようとするのも自由なら、助けを断るのも自由なのですから。

こういうわかりやすい「人助け」でも、しばしば予想外なことが起きます。

もっとその人の個人的な事情や問題に関して助けることは、予測のできない事が起きる可能性があるということです。

世の中には「よかれ」と思いやったことが相手に通じず、かえって怒りをかうことがあります。

自分の「よかれ」と相手の「よかれ」が違うから起きるからなのですが、人は基本的に自分本位なので、自分の良いも相手に良いと思ってもらえると思いがちです。しかし贈ったプレゼントが相手に必ずしも喜んでもらえているかわからないのと同じように親切も同じ場合があるのです。

前のページで紹介した方位学についてなど予測のできない事が起きるかもしれない例の1つです。

相手が不審に思うかもしれない、今後、私とは疎遠にするかもしれない、もっと悪い事が起きるかもしれないと少し考えすぎるくらいに想像しておき、もし万が一そうなっても「仕方ない」と割り切ろうと覚悟してのことでした。もちろん受け入れてくれてくれる場合も想像はしてはいましたが、世の中には、こういうこと一切を受け付けない人もいると知っているから用心深くなっていたのです。これがもし逆の立場だったら、やはり最近知り合った人からこの手のことを言われたら多分、警戒すると思えるのです。

親しくしている友人を失うかもしれないという危険を冒してでも方位学について話そうと思ったのには、それ以前に他の友人のことで後悔したことがあり「何もしないで後悔するよりはしたほうがいい」と考えを改めたからなのです。

そこから10年以上が過ぎましたが、相変わらず「人助け」は難しいと思います。「人助け」や「親切」などは相手に「喜んでもらえる」のを期待してやるのではないということです。

見返りを期待せず、自分のできることで、最善を尽くすことのみだと思います。

運勢や運命を「船と航路」で例えました。

人にはそれぞれの特徴があります。姿かたちも違いますし、性格、好み、育ってきた環境など全く同じ人はいないと思います。そして運勢も違います。（双子だと生年月日と同じで似ているところが多いかもしれませんが）占い師を選ぶ話題でも書きましたが、自分の経験、知識、フィルターではどの程度、他人の役に立てるか、そのことを考えもしないでいると、親切のつもりが余計なお世話になる可能性が大きいのです。

カヌーが客船を助けようとするのは物理的に無理というのはわかると思います。ひっぱろうとしても、相手の馬力に負けてしまいます。それでもまれに助けられることもあるので、絶対に無いとは言い切れないのですが。

人助けはしないよりはしたほうがいいですが、無理はしない。

自分に見合ったやり方で、見返りを期待しないで行う。

それでこそ人助けの価値があるのかもしれませんが。こんなことをわざわざ書かなくても、運の良い方は皆さん自然に行っているのだと思います。

私はながらく運が悪くなくて、ずっと間違えていたのでわざわざ書いているのです。

今もわかっているのはこの程度です。

人助けを行うなら、まず一般的に誰もがわかりやすい親切な行動、当たり前のマナーを守ることと何より自分の一番身近な家族を幸せにしてからが最短コースかもしれません。